

近年多発する災害

大阪北部地震、平成30年7月豪雨、北海道胆振東部地震……。この半年以内に起こった災害では、いずれも死者が出ており、中でも高齢者の割合が非常に高く、高齢者が災害に対して弱い立場にあるという事実が改めて浮き彫りとなりました。

近年、長浜市でも多くの地区に向けて「避難準備」、「避難勧告」を発令することが増えています。

このような災害の際に、非常に大切になってくるのが、近所の人たちの声かけです。

高齢者やしょうがい者などの「要配慮者」は、避難情報が出ても伝わりにくい、避難しようにもうまく歩けないといった状況が生まれやすくなっています。特にひとり暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯は危険性が高まります。

そのような時に、「○○さん大丈夫？」「今、消防団の人呼んだから、来たら避難しようね」といった声かけが、命を守ることにつながるのです。

増えるひとり暮らしの高齢者

市内でもこの5年間でひとり暮らしの高齢者が増えています。また、独居ではなくても高齢者だけで住ん



特集 地域で支える 避難支援と日ごろの見守り ～「いつも」のつきあいが「もしも」に生きる～

※18ページの「市民からのメッセージ」の対象です。

地域の取組「見守り支えあい活動」

見守り・支えあい活動を精力的に取り組んでいる自治会を紹介します。

一の宮自治会 「いつも」の情報共有が 「もしも」に生きる！

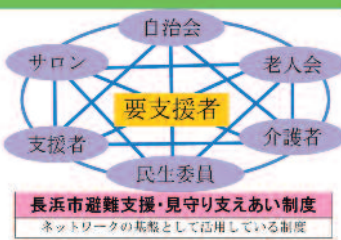
「自治会、民生委員、老人会、介護者、支援者がそれぞれ連携して、情報共有を怠らない」「一の宮自治会の見守り活動の特色です。

「○○さんはこの時間いつも畑仕事しとるんよ」、「○○さんは日中必ずカーテン開けるよ」など何気ないと思う情報でも共有することで、「今日は畑仕事していない。もしかしたら体調が悪いのかな」、「カーテンが開いてない。ちょっとチャイム鳴らしてみようかな」という気づきにつながります。

他にも介護者の体調も気づいて情報を共有することで、周りがサポートに動きやすくなります。

一の宮自治会では、よりたくさんの情報を共有するために、下記の取組を行っています。

一の宮自治会見守りネットワーク



介護者の情報共有の場 介護者サロン「チヨコットいづく」

介護者・介護経験者を対象としたサロンです。お昼を食べながら雑談を交えて、情報の共有を行います。開始時間を決めていますが、終了時間はあえて「日が暮れるまで」という表記に。これにより時間を気にせず介護者が参加しやすくなるそうです。

介護者の心の休まる場所としての役割があり、1年間に6〜7回開催しています。

見守り支援ネットワーク会議

1年に一回、自治会役員、民生委員・児童委員、老人会、サロン支援者、支援者介護者が集まり、情報交換、共有を行い、市に提出する避難支援・見守り支えあい制度のシートを見直しします。

また、社協と連携して、見守り活動について研修学習を行います。



▲研修学習会の様子

集福寺自治会

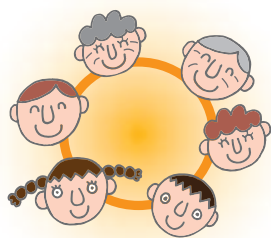
お互いに負担がかからない
見守り支えあい

集福寺自治会が見守り支えあい活動に力を入れはじめたのは約20年前。阪神大震災や大雨の被害があり、自治会内での災害に対する意識の重要性を感じ、当時の西浅井町社会福祉協議会のサポートを受け、防災福祉委員会を立ち上げました。

集福寺自治会の特色は、「見守る側も、見守られる側も負担がからない見守り支えあい活動」です。見守る側の支援者には、普段の日常会話や、散歩などに見守ることだけを頼み、お願いしており、自宅に訪問を行うことはお願いしていません。自宅に訪問することが支援者にとっても支援を受ける側にとっても負担がかかる可能性があるからです。

また、小学生以下の子どもたちも見守り対象としており、地域全体で子どもたちの安全のため見守り活動を行っています。

普段のつきあいのなかで見守り、遠くからの見守りを大切にしている、地域の安全や安心を築いています。



一目でわかるもしものときの備え 防災・福祉マップ

集福寺自治会では、地区内のハザードマップに、要援護者・支援者の情報を落とし込んだ「防災・福祉マップ」を作成しています。自治会長、防災福祉委員、自治会館内に設置しており、もしものときにスムーズな避難活動が行える体制を作っています。

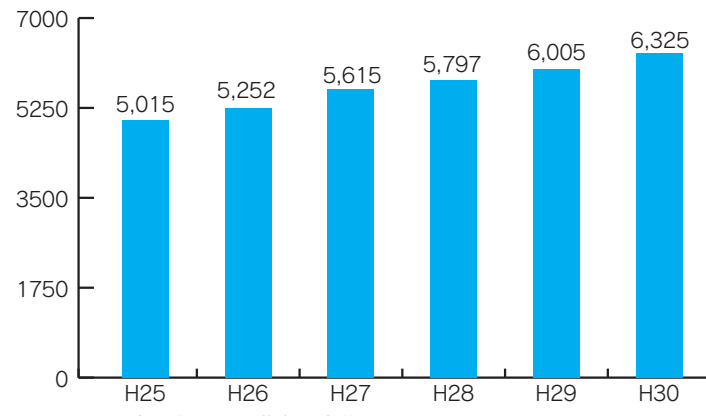


防災に対する意識づけを行う 防災研修

毎年、年に一度の防災訓練後に、視野の狭さや体の動かしにくさを再現したお年寄り体験や、車椅子体験、救急救命研修などを行います。多くの人が参加しており、地区内での防災意識を高めています。



一人暮らしの高齢者の推移



▲65歳以上の一人世帯の推移
※全てがひとり暮らしの高齢者とは限りません

でいる世帯や、日中に家族が仕事に出てしまい、家に一人残される高齢者もいます。災害時でなくても、突然倒れてしまったり、体調が悪くなった時に、誰にも気づいてもらえなければ、命の危険につながることもあります。そのような時に、普段から近所の人や声かけをしたり、見守り活動を行うことで、異変にいち早く気づくことができ、早期の発見につながります。

今号の特集では、災害時等に備えた地域における日ごろの見守り支えあい活動を紹介します。